

水木しげる氏

表紙絵

＝疲れたら寝るのが一番＝

表紙絵：水木しげる

- | | | |
|---------------------------|-------|-----|
| ・ 特集：調和分館（旧つつじヶ丘分館）開館50周年 | | 2 |
| ・ 特集：染地分館は開館40周年を迎えました！ | | 3 |
| ・ 分館の1年をご紹介！分館すごろく | | 4～5 |
| ・ 若葉分館休館に伴う臨時窓口のご案内 | | 6 |
| ・ 図書館の感染予防策 | | 6 |
| ・ 郷土の歴史と伝承 | | 7～8 |

祝 調和分館(旧つつじヶ丘分館)開館50周年

調和分館はつつじヶ丘駅と柴崎駅の南側、どちらから歩いて10分ほどの場所にある分館です。調和分館ができる以前は「つつじヶ丘分館」という分館があり、調和分館はつつじヶ丘分館を引き継いで開館しました。今年はずつつじヶ丘分館が開館した年から数えた50周年です。

みなさんは、つつじヶ丘分館をご存知ですか？



つつじヶ丘分館はどんなところだったの？



▲増改築前の外観 屋根はトタン板
入口の周りは自転車の大渋滞！

1970年7月20日、つつじヶ丘分館は開館しました。トタン屋根にブロックでできた壁という、昔話にできそうな建物です。市内最初の分館である国領分館が床面積約300㎡の広さで開館したのに対し、つつじヶ丘分館は当初約90㎡と小さな図書館でした。

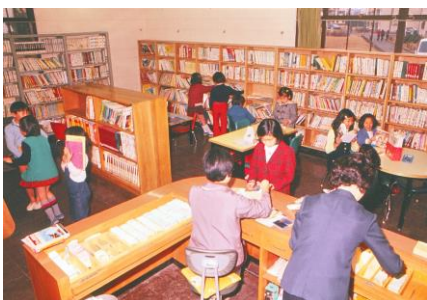
開館初日は児童書1,911冊の蔵書でスタートしました。386の方が来館し、311冊の本が借りられました。当時は機械が導入されておらず、貸出冊数はひとり1冊でした。

館内には事務室がなく、職員は和室の集会室を使って仕事をしていました。また、連日室温が40度を超える過酷な環境で、図書館に来た子どもが泣き出してしまうこともあったといいます。開館翌年の8月には、図書館としては初めて冷房装置が設置されました。開館から5年経つまでには増改築も行われ、和室の集会室が一般室になり、事務室が増築され、面積も113㎡になりました。

つつじヶ丘分館は2002年7月21日に閉館するまで、たくさんの方に親しまれていました。つつじヶ丘分館の様子は『つつじヶ丘分館の思い出』(調布市立図書館つつじヶ丘分館 2002年)という文集にまとめられていますので、ぜひ図書館で手に取ってみてください。



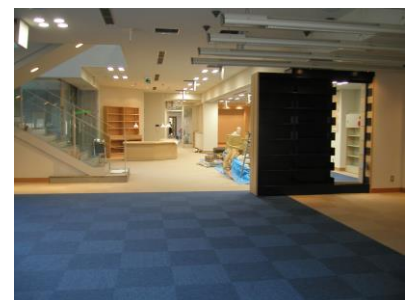
▲増改築後の入口
この頃は開館時間が午後1時から午後5時まででした



▲つつじヶ丘分館 子ども室の様子
本の貸出しは機械化されていません



▲一般室で本を選ぶ利用者



▲建築中の調和分館
家具が入る前の貴重な写真

祝 染地分館は開館40周年を迎えました！

染地分館は、1980年6月6日に調布市内で10番目の分館として開館しました。

40周年という節目の年を迎えて、染地分館の歴史を振り返ります。



・染地分館の開館当初の状況

蔵書は一般書が約1万3千冊、児童書が約5千冊(昭和55年6月30日発行「調布市立図書館報第80号」より)。

貸出冊数は、一般書187冊、児童書543冊。登録者数は、一般87件、児童は322件もあったそうです！開館時間は4時間。貸出冊数はひとり3冊まででした。



▲開館当時の全景です。



▲新聞・雑誌コーナーはL字型のレイアウト。

開館当時は、併設の染地地域福祉センター入口にありました。

当時の日誌を見ると、地域の方から寄贈などご支援をいただいたり、開館前の図書館を子どもが覗き込みいつから開くのか話し合っていたりと、地域の方々の図書館に対する期待の高さを伺い知ることができます。

・染地分館、開館当時のほのぼの&面白エピソード

●いっしょに読書

1時～2時位の暇な時間に親子連れが来て、お母さんは一般の本、3才位の女の子はこどもの本を読んでいた。その女の子がパンダのぬいぐるみをもって女の子がパンダを読む前に、パンダをいた。自分が本を読む前に、パンダを椅子に座らせ、本を立て、パンダが読んでいるようにし、自分も読みだした。こどもの本の中でもこういった光景が描写されている作品もあるが、実際に見て、久しぶりに胸に残る光景だった。

(昭和55年9月17日の日誌より)

●染地に集う謎の集団…？

いつも悪ぶっている小6の男の子がいる。今日、レファレンスがその子からあったので、日常なこと等を話した。その中でその子がよくここに図書館が建ったものだと思議そうに言う。その理由がこの一帯は悪の集団でルート20なるものが夜等集まって騒いでいるとのこと。こんな所には建たないと思っていたそうである。その男の子がまじめに話したので、私の方も聞きこんでしまった。(中略)本当なのだろうか。おもしろい事を話してくれる子が実に多い。

(昭和55年10月18日の日誌より)

いつの時代も、子どもたちの発想はユニークです。

次は50周年を目指して、これからも地域の方々の期待に応えられる図書館であるよう努めて参ります。染地分館を、どうぞよろしくお願いたします。

分館の1年をご紹介します!

分館おごろく

スタート

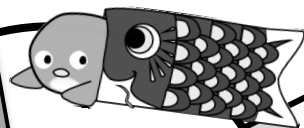
4月

分館の1年が始まります!



5月

4月27日～5月10日は
こどもの読書週間!
イベントを行うこともあります
1マスすすむ



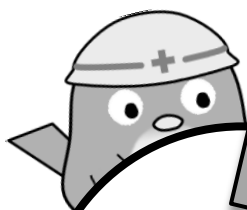
9月

道案内の看板は劣化して
いないかな?
1年に1度チェックして
います!



10月

近くの施設と合同
で防災訓練! いざと
いう時に備えます
1マスすすむ



12月

クリスマス近くになると、
いつものおはなし会とはちょっと違った
スペシャルおはなし会を開催!
内容も各分館で考えています

サイコロを振って

- 1, 3, 5の目: 左の人が1回休み
- 2, 4, 6の目: 自分が1マスすすむ

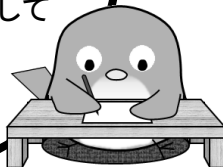
敷地内にポイ捨てされた
ゴミを発見!

1回休み

「地域を知る地図」を
ご存知ですか?

各分館で周辺地域の地
図を作り、毎年更新して
います

11月



6月

6月前半は蔵書点検！

本がちゃんと棚の正しい位置にあるか、なくなっている本はないか点検しています

サイコロを振って

1, 3, 5の目:1回休み

2, 4, 6の目:1マス進む

クリーニングに出していたカーペットがピカピカで戻ってきた！

1マスすすむ

分館周りの木の枝や雑草がのびてきました。

剪定してスッキリ！

8月

夏休みは1年の内で1番忙しいシーズンです。宿題の本探しはお早めに！

職員も本探しお手伝いします！

サイコロを振って

1, 3, 5の目:右の人が1マスすすむ

2, 4, 6の目:自分が1マスすすむ

7月

もうすぐ夏休み！

夏にぴったりの展示を準備します

2月

来年度に向けて事務室や書類の整理を始めます

大雪で建物の周りが雪まみれに！

みんなで雪かき

1回休み

1月

あけましておめでとうございます！

年末年始の休館中にたまった新聞を整理する作業で初日は大忙しです

1回休み

今年の干支はなにかな？

児童室では干支にちなんだ展示を行うこともあります

3月 ゴール

今年度もご利用ありがとうございました！

新年度もよろしくお願いいたします！



若葉分館休館に伴う 臨時窓口のご案内

若葉分館は施設の環境改善のため、11月29日まで臨時休館しています。

休館期間中は東部公民館内に図書臨時窓口を開設しています。

開設時間：午前11時～午後5時

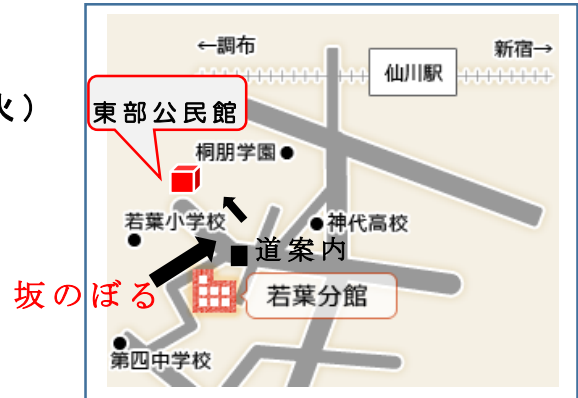
休業日：毎週月曜日、9月27日（火）

10月27日（火）、11月17日（火）

主なサービス案内は次のとおりです。

臨時窓口でのサービス

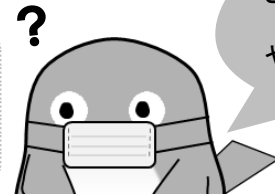
- ・連絡済みの予約資料のお渡し
- ・返却資料の受取り
- ・記入済み予約カードの受取り



京王線「仙川駅」または若葉分館から徒歩7分程度。

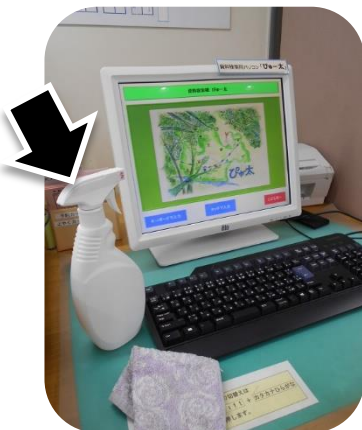
ご不便をおかけしますが、ご理解ご協力をお願いいたします。

図書館の感染予防策



どんなことを
やっているんだろう？

図書館では、新型コロナウイルス感染拡大防止のため
様々な対策を行っております。



多くの方が触れるものや
返却された本の消毒



カウンターに防護幕を設置



ソーシャルディスタンスを
呼びかける表示

他にも、館内の換気、トレイでの利用カードの受け渡しなどの対策をとっています。
感染拡大防止のため、ご不便をおかけしますが、ご協力よろしくをお願いいたします。

近代農業を支えた馬の力

関 口 宣 明 のぶ あき

人は昔からさまざまな生活のなかで動物と関りをもってきました。とくに最近ではペットブームといわれ、動物を家族の一員のように大切にしていますが、ひとむかしまえ一昔前の農村においてはどうかだったのでしょうか。

調布市内を歩いてみると、所々に馬頭観音ばとうかんのんの石仏せきぶつが見られます。これらは江戸時代の終わり頃から昭和にかけて、馬を扱う人々が馬の安全祈願と供養をするために立てたもので、長い間、荷物の運搬や農作業に大きな働きをしていた馬が大切にされたことを物語っています。

1. 明治時代の馬の飼育

それでは調布にどのくらい馬が飼われていたかといえば、たとえば下石原村しもいしわらでは江戸時代終わり頃（1804）には、戸数 86 戸に対して馬 12 頭が飼われ、明治初期（1874）には戸数 92 戸に対して馬 6 頭と減っています。他の村々でも明治時代になると馬を飼う家はわずかとなっていました。馬を飼うには多量のワラ、干し草、大豆などを食べさせなければならなかったため、馬を家で飼えるのは土地持ちの旧家や運送業者に限られてきたからです。

2. 馬喰商人の誕生 ばくろう

調布でも農村の若者の中から、遠方に旅をして牛馬の取引をしたり、山村などから農耕に使う馬を借りてきて、その馬を農家に貸し出して利益を得たりする馬喰商人といわれる人がでてきました。

明治の中頃になると農家は養蚕いそがで忙しくなり、6月半ばになっても田植えができませんでしたので、足の速い馬を使って早く田の土起こしをする必要がありました。そこで他の土地の話題を豊富に持っている馬喰商人に頼んで、田植えが調布とくらべてひとつき一月も早くすむ埼玉、千葉境よしかわの吉川周辺ばくろうの進んだ所か

ら馬を借りてきて、農家が交代で使いました。

3. 新しい農業技術の導入

江戸時代までの東日本では田を耕すのに馬を使わず、ほとんど人力で行なっていました。それは水分を含んだ泥深い湿田どろぶか しつでんが多かったためです。しかし明治初期に湿田の排水をして乾田化かんでんかが進むと土が硬くなり、人力での耕起が困難になります。そこで馬に犁すきという木製の農具を引かせて田んぼの土を深く掘り返し、多くの肥料を入れることで米の増産をはかる方法がとられはじめました。



大正期の馬耕（旧調布町）

かみいしわら おおまち上石原や旧大町（現菊野台）では、明治初期に北関東で使われていた形の犁すきが大正時代になって使われました。また借馬しやくばの風習があった府中、国立、八王子などでも同様の犁が見られます。このことから馬喰商人ばくろうによって馬耕先進地の情報が伝わっていたことがうかがえます。

明治から大正へと時代が移り変わるなかで、馬喰商人による他地域との交流は、馬による農作業の改良と人々のくらしの質を高める効果をもたらしました。今日では馬は身のまわりでは縁遠い存在となっていますが、地域の歴史をふりかえると、馬が人々のくらしと農業を支える大きな役割を果たしていたことがわかります。

風害と昔の暮らし

関 口 宣 明 のぶ あき

風や洪水など、自然の脅威きょうゐを防ぐために今も昔もさまざまな努力がなされてきました。かつての農耕生活では、穀物や野菜を育てるうえで、豪雨以外の雨は歓迎されるものでしたが、季節によって吹き荒れる風は、住すまいや作物に大きな被害をもたらすものとして恐れられていました。

1. 東京周辺の季節風

東京の郊外では、冬には冷たく乾燥した「からっ風」と呼ばれる北風が吹き、まだ人家の少なかった明治大正の頃まで、強風と土ぼこりがひどかったのです。さらに冬から春への変わり目に吹く突風とつふうには、富士山から吹き下ろす南西風の「フジオロシ」や「フジカタ」、南南西風の「フジミナミ」といった呼び名がありました。

これらの風が茅かややワラなどで作った草ぶき屋根に吹き付け、屋根が飛ばされる被害もでました。また夏の終わりごろに吹く「辰巳たつみ（南西の方角）風」は、天候が悪化する前ぶれでした。

2. 二百十日の風祭りと言ひ伝え

9月1日ごろには、「二百十日」という日がめぐってきます。この日は立春りっしゅんから数えて210日目にあたる日のことで、「辰巳風」が吹く季節でした。米作り農家にとっては、この時期はイネの花が開き、実を結ぶための大事なときなので、このころに吹く風あらしはもっとも警戒けいかいされました。そこで、この日を目安めやすとして毎年、風祭りを行ない、村の男性たちは神社に集まり、お神酒みきを上げたり、うどんを作って供えたりと、村人が力をあわせて無事を祈願しました。

また嵐は魔物まものが吹かせると考えられたためか、風を切るために、家の入口に草木か かしを刈る鎌の刃先を辰巳の方角に向けて挿さしておきました。

調布では、風にまつわる予想として、大正14年（1925）に、ラジオによる天気予報が始まる前から、「朝、富士山に小さな雲がかかる日は西北風が強い」とか、「蜂（アサガハチ）の巣が低いと大風が吹き、高い年は台風がこな

い」などと言ひ伝えられてきました。

3. 東向きの家

草ぶき屋根の民家は、柱はしらや梁などの木組みはしっかり造られています。屋根は風に飛ばされやすいので、とくに風除かぜよけには心を配りました。屋根に強風をまともに受けないように、家のまわりにケヤキやカシの木などの屋敷林やしきりんをめぐらせたり、南北の方向に縦長たてながにおもや主屋をかまえ、玄関を強風のこない東に向けたりしました。



市内に残された屋敷林（平成7年撮影）

旧上石原村きゅうかみいしわらにあった近藤 勇の生家をはじめ、昭和59年ごろまで調布に残されていた草ぶき民家（幕末から明治中期にかけての建築）24軒のうちの半数は、東や東寄りの方向に玄関がありました（『調布の古民家』）。また家の庭には、不作に備えて穀物を蓄たくわえる穀倉こくぐらや、大切な衣類ちようどひん、調度品ていどひんをしまう土蔵どぞうを建てて、災害から暮らしを守る工夫もしました。このように土地に伝えられた文化遺産いさんや伝承は、調布をとりまく自然環境のなかで起こってきた風害などの歴史と、それに向きあって暮らしてきた人々の知恵を物語っています。

参考：柳田国男『風位考』・『調布市史民俗編』

刊行物番号

2020-109

図書館だより 第256号

令和2年9月25日発行 [市内印刷]

発行 調布市立図書館

〒182-0026 東京都調布市小島町2-33-1

TEL 042-441-6181

<http://www.lib.city.chofu.tokyo.jp/>